



特256

79

和歌山縣  
西牟婁郡

田邊町勢要覽

昭和十六年



\*0032656000\*

0032656-000

特256-79

和歌山縣西牟婁郡田邊町勢要覽

田邊町

昭和16年

昭和16

AFB

持256

79

昭和十六年

和歌山縣  
西牟婁郡

田邊町勢要覽

特 256  
79

【製調月四年六十和昭】

# 田邊町勢要覽 昭和十五年

教育										人口										土地										沿革										位置									
<p>第一國民學校 第二國民學校 第三國民學校 第四國民學校 第五國民學校 第六國民學校 第七國民學校 第八國民學校 第九國民學校 第十國民學校</p>										<p>總人口 戶數 性別 職業別</p>										<p>面積 地目 所有權</p>										<p>沿革 重要事件</p>										<p>位置 交通 地理</p>									

農業										畜産										林業										漁業										工業										商業										交通										衛生										教育										宗教									
<p>米 麦 大豆 其他</p>										<p>牛 猪 羊 其他</p>										<p>杉 松 雑木</p>										<p>魚 貝類 其他</p>										<p>製糖 製粉 其他</p>										<p>商店 銀行 其他</p>										<p>道路 桥梁 其他</p>										<p>保健 消防 其他</p>										<p>学校 幼稚园 其他</p>										<p>神社 寺庙 其他</p>									

町政										財政										農會及組合										社會										礦業										水産									
<p>町長 町議員</p>										<p>收入 支出</p>										<p>農會 漁業組合</p>										<p>株式會社 合資會社</p>										<p>石 砂 土</p>										<p>魚 貝類 其他</p>									

備考 本表ハ昭和十五年ノ事實ニ依リ調製シ 歳入歳出決算ハ昭和十四年度ニヨル



◆名勝・舊蹟◆

闘鶏神社

(田邊驛より自動車約二分)  
開創は入皇十九代元天皇八年九月熊野権現を此地に勧請し「田邊の宮」と稱し奉つたに始まる云ふ然し又之よりも以前より何等かの建造物が安置されて居たことも傳へられる。

其の後熊野別當湛快の時新たに天照大神以下十一神を勧請して「新熊野」と稱し奉つた湛快の子湛増が田邊に住んで熊野別當を繼ぎ元暦元年源朝平家追討の時赤・白の鶏を社前に闘はせ白鶏が勝を占めた結果源氏に黨し屋嶋の合戦に参加した社號の闘鶏神社は之に由来する云はれて居る。  
寶物多し舊記には「萬代記」及「田邊大帳」がある。

扇ヶ濱

(田邊驛より自動車約三分)  
大字上屋敷町會津川口の東岸大濱波止場より磯間の海濱に至る一帯の海濱である。松林地帯を形成す。  
慶應三年島屋助が此處から兵船を醸して四國に渡る時、形狀扇の如くその美しいのを賞して扇ヶ濱と命名した云ふ。

白砂青松相映じ、風光極めて明媚、紀南の勝地として知られ、夏期は海水浴、林間學校、キャンプ等に絶好の適地である。  
大正十四年六月和歌山縣より名勝に指定せられた。

天神崎

(田邊驛より自動車約七分)  
大字元町の天神崎は田邊灣の北西を擁し背後の天神山は南に渺茫たる太平洋を望み、東は田邊灣及び田邊市街を眺め西に目良浦、元嶋を俯瞰し遙かに四國の山を望み風光頗る雄大である。  
岬端に近く千疊敷と稱する岩礁平かな廣地がある。行樂に通ずるから春秋の候には子女の遊園地となり海岸一帯は魚釣りに妙だ。

元嶋

(田邊驛より自動車及び船約二十分)  
元嶋は目良を距る海上約一、二丁の所にあつて元島、小元島、辨天島の三つより成る。  
元嶋の山林面積は二三反二畝拾九歩、小元島二反九歩、辨天島六反二七歩で共に周圍には砂濱及び岩礁があり風光は絶佳で魚釣りによく、遊歩に通じて居る。大正十四年町費を投じて小亭を建築して宴席等の用に開放し、同十五年、目良保勝會は辨天島内に勸請して社祠を建立し、目良元嶋の中央海面に大鳥居を建設した。

牛の鼻の窟

(田邊驛より自動車約八分)  
元町笠ヶ谷二〇四二番地に近い海濱にあつて、内部の高さ約二間廣さ約五間の貫通した岩窟で、外觀の形狀風牛が首を延べたやうな所から「牛の鼻」の名がある蓋し往昔熊野神渡御の舊蹟である此の海濱に「魚貝」と云ふ牛の角に似た白色の貝を産するのち一奇である(十返舎一九の金の草鞋をも見よ)  
大正初年の頃、附近に茶店を設け遊覽客を迎へて居る。

獅子舞岩

(田邊驛より自動車約七分)  
大字神子濱東葛瀬谷七七一番地の田の中にあつて、高さ約四間、幅約三間半形狀が獅子舞の擡頭した所に酷似して居るので有名である。

磯間浦

(田邊驛より)  
大字淡字磯間の海濱を云ふ。  
扇ヶ濱の東に接し、東は神子濱の六扇ヶ濱との境に小松島と云ふ小丘が三疊崎と稱し之と相對する海面一二ふ小島がある。三疊崎は海濱極かにである。  
此の磯間浦の灣内の神島、旗島、島山等を望み風景極めて佳なり。

鬼橋巖

(田邊驛より)  
大字神子濱、神樂神社に接續し砂岩をなし洞穴の下は道路を通じて居る高さ約五丈、幅約一丈五尺、形狀が居る故に探り訪ふもの多し。  
大正十四年四月縣より天然記念物に

出立王子

(田邊驛より)  
大字元町字出立三三七番地にあつて一つである。  
出立は萬葉集其他古歌の名所である。月上ノ山の王子社(今は八立神社)の跡地には「出立神社の跡」と刻しざないが、大正十四年六月和歌山縣られた。

宗祇庵趾

(田邊驛より)  
大字元町字古町二〇八番地にあつて現今は古町之尾ノ崎町古尾青年會上野山麓に位し眺望佳良である。  
文明年中宗祇が此處に小庵を結び世を旅に宿をかり出の邊りかなと吟じた所と傳へられて居る。

辨慶松

(田邊驛より)  
大字福路町字清水に辨慶松あり、樹圍一丈三尺の大樹である。  
往時關東又は東北地方より熊野へ參詣萬歳と稱して必ず田邊の城下に宿し給て食せし事「紀伊名所圖會」に見ゆ又此の松の葉を取つて持ち歸つたこと六月縣より天然記念物に指定せられた。

文里温泉

(田邊驛より)  
大字神子濱文里の温泉は紀伊の松島の中に位し昭和十一年夏開場泉質の効果き田邊町の行樂地として好評を博し尙温泉場は紀伊田邊温泉株式會社の經營のため多數の自炊室を設け其他家庭の場も完備して居る。

昭和十六年八月廿日印刷  
昭和十六年八月廿日發行 (非賣品)  
編輯兼發行人 那須孫  
印刷所 笠松印

◆名勝・舊蹟◆

閻鷄神社

(田邊驛より自動車約二分)  
開創は人皇十九代允恭天皇八年九月熊野権現を此地に勧請し「田邊の宮」と稱し奉つたに始まる云ふ然し又之よりも以前より何等かの建造物が安置されて居た事も傳へられる。

其の後關野別當漢快の時新たに天照天神以下十一神を勧請して「新熊野」と稱し奉つた漢快の子漢増が田邊に住んで熊野別當を繼ぎ元暦元年源賴朝平家追討の時赤・白の鷄を社前に闘はせ白鷄が勝を占めた結果源氏に黨し屋嶋の合戦に参加した社號の閻鷄神社は之に由来する云はれて居る。  
寶物多し舊記には「萬代記」及「田邊大帳」がある。

扇ヶ濱

(田邊驛より自動車約三分)  
大字上屋敷町會津川口の東岸大濱波止場より磯間の海濱に至る一帯の海濱である。松林地帯を形成す。  
慶應三年島屋義助が此處から兵船を續して四國に渡る時、形狀扇の如くその美しいのを賞して扇ヶ濱と命名した云ふ。

白砂青松相映じ、風光極めて明媚、紀南の勝地として知られ、夏期は海水浴、林間學校、キャンピング等に絶好の適地である。  
大正十四年六月和歌山縣より名勝に指定せられた。

天神崎

(田邊驛より自動車約七分)  
大字元町の天神崎は田邊灣の北西を擁し背後の天神山は南に渺茫たる太平洋を望み、東は田邊灣及び田邊市街を眺め西に目良浦、元嶋を俯瞰し遙かに四國の山を望み風光頗る雄大である。  
岬端に近く千疊敷と稱する岩壁平かな廣地がある。行樂に通ずるから春秋の候には子女の遊園地となり海岸一帯は魚釣りに妙だ。

元嶋

(田邊驛より自動車及び船約二十分)  
元嶋は目良を距る海上約一、二丁の所にあつて元島、小元島、辨天島の三つより成る。  
元嶋の山林面積は二三反二畝拾九歩、小元島二反九歩、辨天島六反二十七歩で共に周圍には砂濱及び岩礁があり風光は絶佳で魚釣りによく、遊歩に通じて居る大正十四年町費を投じて小亭を建築して宴席等の用に開放し、同十五年、目良保壽會は辨天を島内に勧請して社祠を建立し、目良元嶋の中央海面に大鳥居を建設した。

牛の鼻の窟

(田邊驛より自動車約八分)  
元町笠ヶ谷(二〇四二番地)に近い海濱にあつて、内部の高さ約二間廣さ約五間の貫通した岩窟で、外觀の形狀臥牛が首を延べたやうな所から「牛の鼻」の名がある蓋し性善野神渡御の舊蹟である此の海濱に「角貝」と云ふ牛の角に似た白色の貝を産するもの一奇である(十返舎一九の金の草鞋をも見よ)  
大正初年の頃、附近に茶店を設け遊覽客を迎へてゐる

獅子舞岩

(田邊驛より自動車約七分)  
大字神子濱東濱谷七七一七番地の田の中にあり、高さ約四間、幅約三間半形狀が獅子舞の擡頭した所に酷似して居るので有名である。

磯間浦

(田邊驛より自動車約五分)  
大字淡子磯間の海濱を云ふ。  
扇ヶ濱の東に接し、東は神子濱の六本島居の濱に隣る扇ヶ濱との境に小松島と云ふ小丘があつて、其の麓は三疊崎と稱し之と相對する海面一丁余の所に旗島と云ふ小島がある。三疊崎は海波極かに天然の良海水浴場である。  
此の磯間浦の灣内の神島、旗島、高島、瀬戸半嶋の連山等を望み風景極めて佳なり。

鬼橋巖

(田邊驛より自動車約五分)  
大字神子濱、神樂神社に接し砂岩より成り橋梁の形をなし洞穴の下は道路を通じて居る。  
高さ約五丈、幅約一丈五尺、形狀が甚だ奇觀を呈して居る故に探り訪ふもの多し。  
大正十四年四月縣より天然記念物に指定せられた。

出立王子

(田邊驛より自動車約五分)  
大字元町字出立三二七番地にあつて熊野九十九皇子の一つである。  
出立は萬葉集其他古歌の名所であるが、明治四十年二月上ノ山の王子社(今は八立神社と云ふ)に祀り置かれた跡には「出立神社の跡」と刻した石碑を残すに過ぎないが、大正十四年六月和歌山縣より史蹟に指定された。

宗祇庵趾

(田邊驛より自動車約三分)  
大字元町字古町二〇八番地にあつて面積四十一坪あり現今は古町三尾ノ崎即ち古尾青年會館跡となつて居る上野山麓に位し眺望佳良である。  
文明年中宗祇が此處に小庵を結び世を旅に宿をかり田邊りて居る。ミ時した所だと傳へられて居る。

辨慶松

(田邊驛より自動車約二分)  
大字福路町字清水に辨慶松あり、樹高五十八尺、樹幹周圍一丈三尺の大樹である。  
往時關東又は東北地方より熊野へ參詣するもの辨慶の萬歳と稱して必ず田邊の城下に宿し辨慶の力餅を唱へて食せし事「紀伊名所圖會」にも見ゆ。  
又此の松の葉を取つて持ち歸つた云ふ。大正十四年六月縣より天然記念物に指定せられた。

文里温泉

(田邊驛より自動車約六分)  
大字神子濱文里の温泉は紀伊の松島を前に白砂青松の中に位し昭和十一年夏開湯泉質の効果著しく眺望のよき田邊町の行樂地として好評を博しつゝあり。  
前温泉場は紀伊田邊温泉株式會社の經營にして湯治客のため多數の自炊室を設け其他家庭的な食堂又は宴會場も完備して居る。

昭和十六年八月廿日印刷  
昭和十六年八月廿日發行 (非賣品)  
編輯兼發行人 那須孫次郎  
印刷所 笠松印刷所

416  
457

The right page of the document contains a faint table or ledger. It features a grid of approximately 10 columns and 15 rows. The text within the grid is extremely light and difficult to read, but it appears to be organized into columns, possibly representing different categories or data points. The overall appearance is that of a historical record or account book page.



